

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
297	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
The Emerging Link Between Alcoholism Risk and Obesity in the United States アメリカにおいて台頭してきたアルコール依存症と肥満との関連に関する研究	
<b>執筆者</b>	
Gruza RA, Krueger RF, Racette SB, Norberg KE, Hipp PR, Bierut LJ.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Arch Gen Psychiatry. 2010; 67: 1301-1308	
<b>キーワード</b>	
アルコール依存症、肥満、アメリカ	
<b>要 旨</b>	
<b>目的：</b> 米国ではここ数十年間で肥満の有病率が増加してきており、肥満と物質使用障害との病的関連について仮説を立てた。家族のアルコール依存症が肥満の予測因子となり得るか、また 1990 年代初期と 2000 年代初期との間で、その関連がより強くなっているかどうか明らかにすることである。	
<b>方法：</b> 1991 から 1992 年の National Longitudinal Alcohol Epidemiologic Survey および 2001 から 2002 年の National Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditions のそれぞれの横断研究について分析を行った。対象は、18 歳以上のアメリカ成人であり、一般住民ベース、多段階的、無作為に抽出された集団である。アウトカムは自己申告された身長・体重から計算された BMI30 以上で定義された肥満である。	
<b>結果：</b> 2001 から 2002 年では、家族のアルコール依存症（親または兄弟）を有する女性は、そうでない女性と比較して、肥満のオッズ比が 48% 高く（オッズ比, 1.48; 95%信頼区間, 1.36-1.61; P<.001）、1991 から 1992 年におけるオッズ比 1.06（95%信頼区間, 0.97-1.16）よりも有意に増加していた。2001 から 2002 年における男性では、同様の関連が有意に認められたが（オッズ比, 1.26; 95%信頼区間, 1.14-1.38; P<.001）、女性程強い関連ではなかった。女性におけるこれらの関連および年代の変化は、社会人口統計学的変数、喫煙状況、飲酒、アルコール・薬物依存、およびうつ病などの共変量を調整後も有意であった。同様の傾向は男性にも認められたが、共変量を調整後は、統計学的には有意ではなくなった。	
<b>結論：</b> 本研究は、女性において家族のアルコール依存症と肥満との関連を、また男性においてはその可能性を、それぞれ疫学的に支持するものである。これらの関連は、近年明らかになってきたものであり、食環境の変化とアルコール依存症および関連する障害の素因との間における交互作用からもたらされた可能性がある。	